

1 旅行業法及びこれに基づく命令

以下の各設問について、それぞれの選択肢の中から答を1つ選びなさい。

(1) 法第1条(目的)に関する次の記述のうち、正しいものをすべて選んでいるのはア～エのうちどれか。

- a. 旅行者の利便の増進
- b. 旅行者の数の適正な確保
- c. 旅行者への旅行に関する啓蒙
- d. 旅行業等を営む者の組織する団体の適正な活動の促進

ア. a, b イ. a, d ウ. b, c エ. c, d

(2) 次の行為のうち、報酬を得て事業として行う場合、旅行業又は旅行業者代理業の登録を受けなければならないものはどれか。

- ア. 人材派遣業者が、旅行業者の依頼を受けて添乗員を派遣する行為
- イ. 旅行業者の依頼を受けて、その旅行業者が実施している企画旅行の募集用パンフレットを旅行者に配布し、旅行者からの旅行参加の申込みを受け、申込金を収受する行為
- ウ. 宿泊事業者が自ら経営する旅館の海鮮料理食べ放題の企画を新聞広告で募集する行為
- エ. 旅行業者の依頼を受けて、海外のホテルを手配する行為

(3) 登録業務範囲に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- ア. 第2種旅行業者は、国内旅行業務取扱管理者を選任している営業所において、本邦内の企画旅行(参加する旅行者の募集をすることにより実施するものに限る。)に係る旅行契約及び本邦外の手配旅行契約の締結をすることができる。
- イ. 旅行業者代理業者は、所属旅行業者の登録業務範囲が第2種旅行業務である場合、総合旅行業務取扱管理者を選任している営業所において、本邦外の企画旅行(参加する旅行者の募集をすることにより実施するものに限る。)に係る旅行契約を所属旅行業者を代理して締結することができる。
- ウ. 第3種旅行業者は、総合旅行業務取扱管理者を選任している営業所において、本邦内及び本邦外の受託契約を結んでいる他の旅行業者が実施する企画旅行契約(参加する旅行者の募集をすることにより実施するものに限る。)を、当該他の旅行業者を代理して締結することができる。
- エ. 第1種旅行業者は、総合旅行業務取扱管理者の選任の有無にかかわらず、全ての営業所において本邦内及び本邦外の企画旅行(参加する旅行者の募集をすることにより実施するものに限る。)を実施することができる。

(4) 旅行業等の登録に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 第3種旅行業への変更登録の申請をしようとする第1種旅行業者は、変更登録の申請書を主たる営業所の所在地を管轄する都道府県知事に提出しなければならない。
- イ. 旅行業者が更新登録の申請を、有効期間満了の日の2ヶ月前までに行った場合で、登録行政庁から更新の登録をした旨の通知が有効期間の満了の日までにないときでも、旅行業者は引き続き旅行業務に関し旅行者と契約を締結することができる。
- ウ. 有効期間の更新の登録がなされたときは、その登録の有効期間は、従前の登録の有効期間の満了の日の翌日から起算する。
- エ. 総合旅行業務取扱管理者を選任して、第2種旅行業の新規登録を申請しようとする者は、その申請書を国土交通大臣に提出しなければならない。

(5) 登録の拒否に関する次の記述のうち、その事由として誤っているものはどれか。

- ア. 禁錮以上の刑に処せられ、その執行を終えた日から7年を経過した者
- イ. 営業所ごとに、旅行業務取扱管理者を確実に選任すると認められない者
- ウ. 旅行業者代理業を営もうとする者であって、その代理する旅行業を営む者が2以上であるもの
- エ. 第3種旅行業を営もうとする者であって、その基準資産額が250万円であるもの

(6) 営業保証金に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- ア. 旅行業者は、営業保証金を供託し、供託所から供託物受入れの記載のある供託書を受領すれば、直ちに、その事業を開始することができるが、営業を開始したときは、7日以内に当該供託書の写しを添付して、その旨を登録行政庁に届け出なければならない。
- イ. 旅行業者代理業者自らが供託すべき営業保証金の額は、前事業年度における旅行業務に関する旅行者との取引の額にかかわらず250万円と定められている。
- ウ. 旅行業者と旅行業務に関し取引をした者のうち、その取引によって生じた債権に関し、当該旅行業者が供託している営業保証金について、その債権の弁済を受ける権利を有する者は旅行者に限定される。
- エ. 第2種旅行業、第3種旅行業の登録を受けた者の営業保証金の供託は、主たる営業所の所在地を管轄する都道府県知事にしなければならない。

(7) 旅行業務取扱管理者に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- ア. 旅行業者等は、その営業所の旅行業務取扱管理者として選任した者のすべてが欠けた場合、新たに旅行業務取扱管理者を選任するまでの間は、その営業所において、すべての旅行業務を取り扱うことができない。
- イ. 旅行業者の営業所の長は、旅行業務取扱管理者でなければならない。
- ウ. 旅行業者等は、旅行業務に従事した経験が1年未満である者を、旅行業務取扱管理者に選任してはならない。
- エ. 旅行業務取扱管理者は、旅行者から請求があったときは、所定の様式による旅行業務取扱管理者の証明書を提示しなければならない。

(8) 旅行業務取扱管理者の選任に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 旅行者代理業者の営業所の旅行業務取扱管理者は、その所属する旅行者の営業所の旅行業務取扱管理者を兼務することができる。
- イ. 第1種旅行業であっても、本邦内の旅行のみを取り扱う営業所においては、国内旅行業務取扱管理者試験に合格した者を当該営業所の旅行業務取扱管理者として選任することができる。
- ウ. 旅行者等は、破産者で復権を得ないものを、旅行業務取扱管理者として選任することはできない。
- エ. 第3種旅行者の本邦外の旅行業務を取り扱う営業所においては、総合旅行業務取扱管理者試験に合格した者を旅行業務取扱管理者として選任しなければならない。

(9) 旅行業務取扱管理者の職務に関する次の記述のうち、法令で定められているものをすべて選んでいるのはア～エのうちどれか。

- a. 法第12条の規定による料金の掲示に関する事項
- b. 法第12条の9の規定による標識の掲示に関する事項
- c. 旅行に関する苦情の処理に関する事項
- d. 契約締結の年月日、契約の相手方その他の契約の内容に係る重要な事項についての明確な記録又は関係書類の保管に関する事項

ア. a, b イ. b, c ウ. a, b, d エ. a, c, d

(10) 旅行業務の取扱料金（企画旅行に係るものを除く。）に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- ア. 旅行者は、事業の開始前に、旅行者から収受する旅行業務の取扱料金を定め、旅行者からの請求があった場合には掲示しなければならない。
- イ. 旅行業務の取扱料金は、契約の種類及び内容に応じて定率、定額その他の方法により定められ、旅行者にとって明確なものでなければならない。
- ウ. 旅行者代理業者は、所属旅行者の承認を得て、自らの旅行業務の取扱料金を定めることができる。
- エ. 第2種旅行者は、旅行業務の取扱料金を変更するときは、料金の変更を実施する7日前までに主たる営業所の所在地を管轄する都道府県知事へ届け出なければならない。

(11) 旅行業約款に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- ア. 第2種旅行業者が、第3種旅行業へ変更登録する場合は、約款に記載された企画旅行（参加する旅行者の募集をすることにより実施するものに限る。）の契約に係る事項を削除した約款について、登録行政庁の認可を受けなければならない。
- イ. 旅行業者代理業者は、自らが定めた旅行業約款又は標準旅行業約款を、その営業所において、旅行者が見やすいように掲示又は閲覧することができるように備え置かなければならない。
- ウ. 旅行業者は、旅行業約款に記載されている弁済業務保証金からの弁済限度額が減額となる場合は、当該約款について登録行政庁の変更認可を受けなければならない。
- エ. 旅行業者が、旅行業約款を定める場合、旅行中の損害の補償に関する事項は、旅行業約款の記載事項の1つである。

(12) 取引条件の説明に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- ア. 旅行業者等は、企画旅行契約を締結しようとするときは、旅行業務の取扱料金に関する事項について旅行者に説明しなければならない。
- イ. 旅行業者等は、手配旅行契約において、対価と引換えに乗車券類、宿泊券その他の旅行サービスの提供を受ける権利を表示した書面を交付するときは、その取引の条件について旅行者に説明しなくてよい。
- ウ. 旅行業者等が企画旅行契約を締結しようとするとき、旅行者に交付する書面には企画者の氏名又は名称及び住所並びに登録番号を記載しなければならない。
- エ. 旅行業者が旅行の相談に応ずる行為に係る旅行業務について契約を締結しようとするときは、旅行業者の責任及び免責に関する事項を旅行者に説明しなければならない。

(13) 法第12条の5（書面の交付）に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 旅行業者等は、旅行者と手配旅行契約を締結したときは、当該旅行者の請求に基づき、当該旅行者に対し国土交通省令で定める事項を記載した書面又は当該旅行に関するサービスの提供を受ける権利を表示した書面を交付しなければならない。
- イ. 旅行業者等は、旅行者と手配旅行契約を締結したときは、旅行者に交付すべき書面に、当該契約に係る旅行業務取扱管理者の氏名及び旅行者の依頼があれば当該旅行業務取扱管理者が最終的には説明を行う旨を記載しなければならない。
- ウ. 旅行業者は、企画旅行契約において取引条件の説明書面に記載した内容どおりの旅行が実施できるときでも、書面の交付を省略することができない。
- エ. 旅行業者は、書面の交付に代えて、旅行者の承諾を得て、国土交通省令で定める電子情報処理組織を使用する方法その他の情報通信の技術を利用する方法で、当該書面に記載すべき事項を旅行者に提供することができる。この場合、当該書面を交付したものとみなされる。

(14) 外務員に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- ア. 外務員とは、勧誘員、販売員、外交員その他いかなる名称を有する者であるかを問わず、旅行者等の役員又は使用人のうち、その営業所以外の場所でその旅行者のために旅行業務について取引を行う者をいう。
- イ. 旅行者等の外務員が当該旅行者等の営業所内で、旅行業務について取引を行う場合は、外務員証を提示しなければならない。
- ウ. 旅行業務取扱管理者は、旅行業務取扱管理者証をもって外務員証にかえることができる。
- エ. 旅行者代理業者の外務員の証明書は、その代理する旅行者の発行するものでなければならない。

(15) 企画旅行の募集広告の表示事項に関する次の記述のうち、正しいものをすべて選んでいるのはア～エのうちどれか。

- a. 企画旅行者の登録番号
- b. 契約の解除に関する事項
- c. 旅程管理業務を行う者の同行の有無
- d. 旅行の目的地及び日程に関する事項

ア. a, d イ. b, c ウ. a, c, d エ. b, c, d

(16) 誇大広告の禁止事項に関する次の記述のうち、の中に入る語句の組み合わせで正しいものはア～エのうちどれか。

- a. 旅行地における旅行者の ① の確保に関する事項
- b. 旅行者が旅行者等に支払うべき ② に関する事項
- c. 旅行者に対する ③ の補償に関する事項
- d. 旅行者等の業務の ④ 、資力又は信用に関する事項

ア. ①利便 —— ②取消料 —— ③損害 —— ④種別
イ. ①安全 —— ②対価 —— ③損害 —— ④範囲
ウ. ①安全 —— ②取消料 —— ③苦情 —— ④種別
エ. ①利便 —— ②対価 —— ③苦情 —— ④種別

(17) 標識に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- ア. 旅行者等は、営業所において、国土交通省令で定める様式の標識を、公衆に見やすいように掲示するか、又は旅行者が閲覧できるように備え置かなければならない。
- イ. 標識には営業所において選任された旅行業務取扱管理者及び旅程管理業務を行う主任者の氏名を記載しなければならない。
- ウ. 業務の範囲が本邦内及び本邦外の手配旅行を実施する第3種旅行者の標識の色は、白色と定められている。
- エ. 旅行者代理業者の標識には、その所属旅行者の登録番号及び氏名又は名称を記載しなければならない。

(18) 企画旅行の円滑な実施を確保するための措置に関する次の記述のうち、正しいものをすべて選んでいるのはア～エのうちどれか。

- a. 旅行地において旅行に関する計画に定めるサービスの提供を受けるために必要な手続の実施その他の措置
- b. 旅行に関する計画に定めるサービスの旅行者への確実な提供を確保するために旅行の募集開始前にすべての予約を完了その他の措置
- c. 旅行に関する計画に定めるサービスの内容の変更を必要とする事由が生じた場合における代替サービスの提供を受けるために、必要な手続の実施その他の措置
- d. 旅行に関する計画における2人以上の旅行者が同一の日程により行動することを要する区間における円滑な旅行の実施を確保するために必要な集合時刻、集合場所その他の事項に関する指示

ア. a, b イ. a, d ウ. a, c, d エ. b, c, d

(19) 禁止行為に関する次の記述のうち、正しいものをすべて選んでいるのはア～エのうちどれか。

- a. 旅行者に対し、旅行地において特定のサービスの提供を受けることを強要する行為をしてはならない。
- b. 旅行業務に関し取引をする者に対し、その取引に関する重要な事項について、故意に事実を告げず、又は不実のことを告げる行為をしてはならない。
- c. 禁止行為の規定の適用範囲は旅行業務取扱管理者と旅程管理業務を行う者に限って課せられた規定である。
- d. 旅行業務に関し取引をした者に対し、その取引によって生じた債務の履行を不当に遅延する行為をしてはならない。

ア. a, b, c イ. a, b, d ウ. a, c, d エ. b, c, d

(20) 企画旅行（参加する旅行者の募集をすることにより実施するものに限る。）を実施する旅行業者の代理（受託契約）に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

ア．旅行業者は、他の旅行業者が実施する企画旅行について、受託契約を締結したときは、旅行業者代理業の登録を受けなくても、当該受託契約の相手方を代理して企画旅行契約を締結することができる。

イ．第1種旅行業者は第2種旅行業者の受託旅行業者となることができない。

ウ．委託旅行業者及び受託旅行業者は、受託契約において、委託旅行業者を代理して企画旅行契約を締結することができる受託旅行業者の営業所を定めておかなければならない。

エ．委託旅行業者と受託旅行業者が、受託契約において、当該受託旅行業者を所属旅行業者とする旅行業者代理業者のうち当該委託旅行業者を代理して企画旅行契約を締結することができるものを定めたときは、その受託契約において定められた旅行業者代理業者は、当該委託旅行業者を代理して企画旅行契約を締結することができる。

(21) 旅行業者代理業者に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

ア．旅行業者代理業者は、所属旅行業者の有効期間の更新の登録時に所属旅行業者にあわせて更新の登録を行う。

イ．旅行業者代理業者は、その所属旅行業者を誤認させるような表示をしてはならない。

ウ．旅行業者代理業者は、旅行業務に関し取引をしようとするときは、所属旅行業者の氏名又は名称及び旅行業者代理業者である旨を取引の相手方に明示しなければならない。

エ．登録行政庁は、旅行業者代理業者に対し、その行う営業が旅行業であると誤認させないようにするための措置をとるべきことを命ずることができる。

(22) 登録行政庁が旅行業者等に命ずることができる措置（業務改善命令）に関する次の記述のうち、正しいものをすべて選んでいるのはア～エのうちどれか。

a．旅程管理業務を行う主任者を解任すること。

b．企画旅行に関し旅行者から収受する対価を変更すること。

c．旅行業約款を変更すること。

d．企画旅行の円滑な実施のための措置を確実に実施すること。

ア． a, c

イ． b, c

ウ． a, b, d

エ． b, c, d

(23) 登録の取消し等に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 登録行政庁は、旅行者が不正の手段により、新規登録、有効期間の更新の登録又は変更登録を受けたときは、当該旅行者の登録を取消することができる。
- イ. 登録行政庁は、旅行者等が旅行業法若しくは旅行業法に基づく命令又はこれらに基づく処分違反したときは、6ヶ月以内の期間を定めて業務の一部又は全部の停止を命じることができる。
- ウ. 登録行政庁は、旅行者等の登録を取消すときは、遅滞なく、理由を付して、その旨を旅行者に通知しなければならない。
- エ. 登録行政庁は、旅行者が登録を受けてから6ヶ月以内に事業を開始しないときは、その登録を取消することができる。

(24) 旅行業協会の業務に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 旅行業協会は、旅行者から社員以外の旅行者が取り扱った旅行業務に関する苦情について解決の申出があったときは、その相談に応じる義務はない。
- イ. 旅行業協会は、一定の課程を定め、旅行業務取扱管理者の職務に関し必要な知識及び能力についての研修を実施しなければならない。
- ウ. 旅行業協会は、旅行業務の適切な運営を確保するための旅行者等に対する指導を実施しなければならない。
- エ. 旅行業協会は、旅行業務に関する取引の公正の確保又は旅行業及び旅行者代理業の健全な発達を図るための調査、研究及び広報を実施しなければならない。

(25) 弁済業務保証金制度に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- ア. 保証社員と旅行業務に関し取引をした旅行者が、その取引によって生じた債権に関して旅行業協会が供託している弁済業務保証金から弁済を受ける場合は、その債権について当該保証社員の登録行政庁の認証を受けなければならない。
- イ. 旅行業協会に加入しようとする旅行者は、その加入しようとする日の7日前までに所定の弁済業務保証金分担金を旅行業協会に納付しなければならない。
- ウ. 旅行者は、旅行業協会の保証社員となったときは、供託した営業保証金を取り戻すことができる。
- エ. 旅行業協会が供託している弁済業務保証金から弁済を受ける権利を有する者は、保証社員または当該保証社員を所属旅行者とする旅行者代理業者と旅行業務に関し取引をしたすべての者である。

2 旅行業約款、運送約款及び宿泊約款

1. 次の各設問について、それぞれの選択肢の中から答を1つ選びなさい。

(1) 標準旅行業約款（募集型企画旅行契約の部）に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- ア. 旅行業者は、旅行者が旅行業者の定める旅行日程に従って、運送・宿泊機関等の提供する運送、宿泊その他の旅行に関するサービスの提供を受けることができるように手配するが、旅程を管理することまでは引き受けていない。
- イ. 旅行業者が法令に反せず、かつ、旅行者の不利にならない範囲で口頭により特約を結んだときは、その特約が優先する。
- ウ. 「募集型企画旅行」とは、旅行業者が、旅行者の募集のためにあらかじめ、旅行の目的地及び日程、旅行者が提供を受けることができる運送又は宿泊のサービスの内容並びに旅行者が旅行業者に支払うべき旅行代金の額を定めた旅行に関する計画を作成し、これにより実施する旅行をいう。
- エ. 旅行業者は、契約の履行に当たって、手配の全部を本邦内または本邦外の手配を業として行う者に代行させることはできない。

(2) 標準旅行業約款（募集型企画旅行契約の部）に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 旅行業者は、電話、郵便、ファクシミリその他の通信手段による契約の予約を受け付ける。この場合、予約の時点では契約は成立しておらず、旅行者は、旅行業者が予約の承諾の旨を通知した後、旅行業者が定める期間内に、旅行業者に申込書と申込金を提出又は会員番号等を通知しなければならない。
- イ. 申込金は、旅行代金又は取消料若しくは違約料の一部として取り扱う。
- ウ. 旅行者から、契約の申込時に特別な配慮が必要とする旨の申し出があり、これに基づき旅行業者が当該旅行者のために講じた特別な措置に要する費用は、旅行者の負担とする。
- エ. 旅行者が旅行業者の定める期間内に申込金を提出しない場合又は会員番号等を通知しない場合は、旅行業者は、予約がなかったものとして取り扱い、違約料を申し受ける。

(3) 標準旅行業約款（募集型企画旅行契約の部）「契約の締結」に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 通信契約によらない場合、旅行業者は、申込金の支払いを受けることなく、契約の締結を承諾することにより、契約を成立させることができる。
- イ. 通信契約において電子承諾通知を発する場合は、当該通知が旅行者に到達した時に成立する。
- ウ. 通信契約の申込みをしようとする旅行者は、申込みをしようとする募集型企画旅行の名称、旅行開始日、会員番号等を旅行業者に通知しなければならない。
- エ. 旅行業者は、旅行業者があらかじめ明示した性別、年齢、資格、技能その他の参加旅行者の条件を満たしていないときは、当該旅行者との旅行契約の締結を拒否できる。

(4) 標準旅行業約款（募集型企画旅行契約の部）「契約書面、確定書面」に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- ア. 確定書面を交付した場合であっても、旅行業者が契約により手配し旅程を管理する義務を負う旅行サービスの範囲は、契約書面に記載するところに特定される。
- イ. 契約書面において、確定された運送若しくは宿泊機関の名称を記載できない場合には、当該契約書面において表示上重要な運送若しくは宿泊機関の名称を限定して列挙すれば、確定書面を交付する必要はない。
- ウ. 国内旅行の確定書面は、遅くとも旅行開始日の前日から起算してさかのぼって6日目に当たる日より前に旅行者に交付しなければならない。
- エ. 旅行業者は、契約の成立後、速やかに旅行者に旅行日程、旅行サービスの内容、旅行代金その他の旅行条件及び旅行業者の責任に関する事項を記載した契約書面を交付しなければならない。

(5) 標準旅行業約款（募集型企画旅行契約の部）「契約の変更」に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 旅行業者は、運送・宿泊機関等の利用人員により旅行代金が異なる旨を契約書面に記載した場合において、契約の成立後に旅行業者の責に帰すべき事由によらず当該利用人員が変更になったときは、契約書面に記載したところにより旅行代金の額を変更することができる。
- イ. 利用する宿泊機関が宿泊サービスの提供を行っているにもかかわらず、当該宿泊機関の過失により部屋の不足が生じたため、旅行の実施に要する費用が増加した場合、旅行業者は、増加した費用の金額の範囲内で旅行代金を増額することができる。
- ウ. 旅行業者は、天災地変等その他の旅行業者の関与し得ない事由が生じた場合において、旅行の安全かつ円滑な実施を図るためやむを得ないときは、旅行者にあらかじめ速やかに当該事由が関与し得ないものである理由及び当該事由との因果関係を説明して、旅行日程、旅行サービスの内容その他の契約の内容を変更することがある。
- エ. 旅行業者は、利用する運送機関について適用を受ける運賃・料金が、著しい経済情勢の変化等により、通常想定される程度を大幅に超えて増額されたため、旅行代金を増額するときは、旅行開始日の前日から起算してさかのぼって15日目に当たる日より前に旅行者にその旨を通知しなければならない。

(6) 標準旅行業約款（募集型企画旅行契約の部）「旅行者の契約解除権」に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 旅行開始後において、旅行業者が自らの責に帰すべき事由で契約書面に記載した旅行サービスを受領することができなくなったことを告げたときは、旅行者は取消料を支払うことなく旅行サービスの当該受領することができなくなった部分の契約を解除することができる。
- イ. 旅行者が旅行開始後に旅行業者の責に帰すべき事由によらず、契約書面に記載した旅行サービスを受領することができなくなり契約を解除したときは、当該旅行サービスに対して取消料、違約料その他の既に支払い又はこれから支払わなければならない費用にかかる金額は、旅行業者の負担とする。
- ウ. 旅行者が通信契約を解除した場合、旅行業者は、提携会社のカードにより所定の伝票への旅行者の署名なくして取消料の支払いを受けることができる。
- エ. 運送機関について適用を受ける運賃・料金が、著しい経済情勢の変化等により通常想定される程度を大幅に超えて増額されたため、旅行代金が増額されたときは、旅行者は旅行開始前に取消料を支払うことなく契約を解除することができる。

(7) 標準旅行業約款（募集型企画旅行契約の部）「旅行業者の解除権－旅行開始前の解除」に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 通信契約を締結した場合であって、旅行者の有するクレジットカードが無効になり、当該旅行者が旅行代金等に係る債務の全部を提携会社のカード会員規約に従って決済できなくなったときは、旅行業者は、当該旅行者に理由を説明して契約を解除することができる。
- イ. 旅行者が、旅行業者があらかじめ明示した参加旅行者の条件を満たしていないことが判明したときは、当該旅行業者は、当該旅行者に理由を説明して契約を解除することができる。
- ウ. 旅行者が、契約内容に関し合理的な範囲を超える負担を求めたときは、旅行業者は、当該旅行者に理由を説明して契約を解除することができる。
- エ. 旅行者が、契約書面に記載した期日までに旅行代金を支払わないときは、当該期日において旅行者が契約を解除したものとすることができる。

(8) 標準旅行業約款（募集型企画旅行契約の部）「旅行業者の解除権－旅行開始後の解除」に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 旅行業者は、旅行開始後に旅行者が病気になり旅行の継続に耐えられないときは、契約を解除することができるが、この場合、旅行者が出発地に戻るための旅行に要する一切の費用は、旅行業者が負担する。
- イ. 旅行業者は、旅行開始後であっても旅行者が同行する他の旅行者に対する暴行又は脅迫等により団体行動の規律を乱し、当該旅行の安全かつ円滑な実施を妨げるときは、契約の一部を解除することができる。
- ウ. 旅行業者は、旅行開始後であっても、天災地変、戦乱、暴動、運送・宿泊機関等の旅行サービス提供の中止、官公署の命令その他の旅行業者の関与し得ない事由が生じた場合であって、旅行の継続が不可能となったときは、契約の一部を解除することができる。
- エ. 旅行業者が、旅行開始後に契約を解除したときは、旅行業者と旅行者との間の契約関係は、将来に向かってのみ消滅し、旅行者が既に提供を受けた旅行サービスに関する旅行業者の債務については、有効な弁済がなされたものとする。

(9) 標準旅行業約款（募集型企画旅行契約の部）「旅行代金の払戻し」に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- ア. 旅行業者は、旅行開始日の前日に旅行者から契約解除の申し出があった場合、既に収受した旅行代金から所定の取消料を差し引いた額を契約書面に記載した旅行開始日までに払い戻さなければならない。
- イ. 旅行業者が、旅行開始後に契約を解除した場合、旅行者に払い戻すべき金額が生じたときは、当該解除の日の翌日から起算して14日以内に払い戻さなければならない。
- ウ. 旅行開始後に天災地変により旅行の継続が不可能となったため、旅行業者が通信契約を解除したことにより、旅行者に対し払い戻すべき金額が生じたときは、契約書面に記載した旅行終了日の翌日から起算して30日以内に旅行者に対し払い戻すべき金額を通知する。
- エ. 旅行業者の責に帰すべき事由により、契約書面に記載した旅行日程に従った旅行の実施が不可能になったため、旅行者が旅行開始前に契約を解除した場合、旅行業者が既に収受していた旅行代金の全額を所定の期日までに旅行者に払戻しをすれば、旅行者の旅行業者に対する損害賠償請求権は消滅する。

(10) 標準旅行業約款（募集型企画旅行契約の部）「旅程管理」に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 旅行業者は、すべての募集型企画旅行に添乗員その他の者を同行させて旅程管理業務その他当該募集型企画旅行に付随して旅行業者が必要と認める業務の全部又は一部を行わせなければならない。
- イ. 旅行業者は、旅行サービスの内容を変更するときは、変更後の旅行サービスが当初の旅行サービスと同様のものとなるよう努めること等、契約内容の変更を最小限にとどめるよう努力しなければならない。
- ウ. 旅行業者が、旅行者が旅行中旅行サービスを受けることができないおそれがあると認められるときは、契約に従った旅行サービスの提供を受けられるために必要な措置を講じなければならない。
- エ. 旅行業者は、契約内容を変更せざるを得ないときは、代替サービスの手配を行うが、この際、旅行日程を変更するときは、変更後の旅行サービスが当初の旅行サービスと同様のものとなるよう努めなければならない。

(11) 標準旅行業約款（募集型企画旅行契約の部）「責任」に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 旅行業者は、契約の履行に当たって、手配代行者が過失により旅行者に損害を与えたときは、その損害を賠償する責任を負う。
- イ. 旅行業者は、契約の履行に当たって、旅行業者の過失により旅行者の身体に損害を与えたときは、旅行者が損害発生の翌日から起算して2年以内に旅行業者に対して通知したときに限り、その損害を賠償する責任を負う。
- ウ. 旅行業者は、国内旅行の募集型企画旅行契約の履行に当たって、旅行業者の過失により旅行者の手荷物に損害を与えたときは、損害発生の翌日から起算して14日以内に旅行業者に対して通知があったときに限り、その損害を賠償する責任を負う。
- エ. 旅行業者は、故意又は重大な過失により旅行者の手荷物に損害を与えたときは、手荷物について生じた損害については、手荷物1個につき15万円を限度として賠償する。

(12) 標準旅行業約款（募集型企画旅行契約の部）「旅程保証」に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 旅程保証は、運送・宿泊機関等が当該旅行サービスの提供を行っているにもかかわらず、運送・宿泊機関等の座席、部屋その他の諸設備の不足が発生したことによる契約内容の重要な変更にも適用される。
- イ. 旅行業者が支払うべき変更補償金の額は、旅行者1名に対して1募集型企画旅行につき旅行代金に15%以内の旅行業者が定める率を乗じた額をもって限度とする。
- ウ. 旅行参加者の生命又は身体安全確保のため必要な措置による契約内容の変更には、変更補償金は支払われない。
- エ. 旅行者1名に対して1募集型企画旅行につき支払うべき変更補償金の額が1,000円未満であるときは、旅行業者は変更補償金を支払わない。

(13) 標準旅行業約款（受注型企画旅行契約の部）に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 旅行業者は、企画書面において、旅行代金の内訳として企画料金の金額を明示することができる。
- イ. 旅行者は、旅行開始後において、契約書面に記載された旅行サービスを円滑に受領するため、万が一契約書面と異なる旅行サービスが提供されたと認識したときは、旅行終了後速やかにその旨を旅行業者に申し出なければならない。
- ウ. 「受注型企画旅行」とは、旅行業者が旅行者からの依頼により、旅行の目的地及び日程、旅行者が提供を受けることができる運送又は宿泊のサービスの内容並びに旅行者が旅行業者に支払うべき旅行代金の額を定めた旅行に関する計画を作成し、これにより実施する旅行をいう。
- エ. 旅行業者は、契約の申込みをしようとする旅行者からの依頼があったときは、当該旅行業者の業務上の都合があるときを除き、当該依頼の内容に沿って作成した旅行日程、旅行サービスの内容、旅行代金その他の旅行条件に関する企画の内容を記載した書面を交付しなければならない。

(14) 標準旅行業約款（受注型企画旅行契約の部）「契約責任者」に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 契約責任者は、特約を結んだ場合を除き、その団体・グループを構成する旅行者の契約の締結に関する一切の代理権を有しているものとみなす。
- イ. 契約責任者は、旅行業者が定める日までに、構成者の名簿を旅行業者に提出しなければならない。
- ウ. 旅行業者は、契約責任者と旅行契約を締結する場合において、申込金の支払いを受けなければ契約を成立させることはできない。
- エ. 旅行業者は、契約責任者が団体・グループに同行しない場合、旅行開始後においては、あらかじめ契約責任者が選任した構成者を契約責任者とみなす。

(15) 標準旅行業約款（募集型企画旅行契約の部、受注型企画旅行契約の部）「特別補償」及び「別紙特別補償規程」に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 旅行業者が故意又は過失により旅行者に損害を与えたときは、別紙特別補償規程で定める補償金に加えて、その責任に基づいて支払うべき損害賠償金を支払う。
- イ. 旅行業者は、旅行業者の責任が生ずるか否かを問わず、別紙特別補償規程で定めるところにより、旅行者が企画旅行参加中にその生命、身体又は手荷物の上に被った一定の損害について、あらかじめ定める額の補償金及び見舞金を支払う。
- ウ. 「企画旅行参加中」とは、旅行者が企画旅行に参加する目的をもって旅行業者があらかじめ手配した乗車券類等によって提供される旅行日程に定める最初の運送・宿泊機関等のサービスの提供を受けることを開始した時から最後の運送・宿泊機関等のサービスの提供を受けることを完了した時までの期間をいう。
- エ. 旅行者があらかじめ定められた企画旅行の行程から離脱する場合において、離脱及び復帰の予定日時をあらかじめ旅行業者に届け出ていたときは、離脱の時から復帰の予定の時までの間は「企画旅行参加中」とする。

(16) 標準旅行業約款（募集型企画旅行契約の部、受注型企画旅行契約の部）「別紙特別補償規程」に関する次の記述のうち、補償金等の支払いの対象となるものはどれか。

- ア. 自宅から旅行出発地の空港（集合場所）まで利用したタクシーが事故を起こしたことにより、旅行者が被った傷害
- イ. 国内旅行参加中に発生した地震によって被った傷害
- ウ. 自由行動日の市内散策中に盗難にあったショルダーバッグ
- エ. 出発地の空港の搭乗待合室に置き忘れたデジタルカメラ

(17) 標準旅行業約款（募集型企画旅行契約の部、受注型企画旅行契約の部）「別紙特別補償規程」に関する次の記述のうち、損害額及び損害補償金の支払額として誤っているものはどれか。

- ア. 補償対象品の1個又は1対についての損害額が10万円を超えるときは、旅行業者は、そのものの損害の額を10万円とみなす。
- イ. 旅行業者が支払うべき損害補償金の額は、旅行者1名に対して一企画旅行につき15万円をもって限度とする。
- ウ. 損害額が旅行者1名について1回の事故につき3,000円を超えない場合は、旅行業者は損害補償金を支払わない。
- エ. 旅行業者が損害補償金を支払うべき損害の額は、補償対象品を購入した時の金額を基準とする。

(18) 標準旅行業約款（手配旅行契約の部）に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- ア。「旅行代金」とは、旅行業者が旅行サービスを手配するために、運賃、宿泊料その他の運送・宿泊機関等に対して支払う費用及び当該旅行業者所定の旅行業務取扱料金並びに変更手数料をいう。
- イ。旅行業者が善良な管理者の注意をもって旅行サービスの手配をしたときであっても、満員、休業、条件不相当等の事由により、運送・宿泊機関等との間で旅行サービスの提供をする契約を締結できなかった場合は、旅行業務取扱料金は収受できない。
- ウ。旅行業者は、旅行開始前において、運送・宿泊機関等の運賃・料金の改訂、為替相場の変動その他の事由により旅行代金の変動を生じた場合は、当該旅行代金を変更することができる。
- エ。精算旅行代金が、旅行業者が旅行代金として既に収受した金額を超えるときは、旅行者は旅行業者にその差額を支払い、既に収受した金額に満たないときであっても、旅行業者は旅行者にその差額を払い戻す必要はない。

(19) 標準旅行業約款（手配旅行契約の部）「旅行契約」に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア。旅行業者は、口頭による特約をもって、申込金の支払いを受けることなく、契約の締結の承諾のみにより契約を成立させることがある。
- イ。「手配旅行契約」とは、旅行業者が旅行者の委託により、旅行者のために代理、媒介又は取次をすること等により旅行者が運送・宿泊機関等の提供する旅行サービスの提供を受けることができるように、手配することを引き受ける契約をいう。
- ウ。手配旅行契約は、旅行業者が契約の締結を承諾し、申込金を受理した時に成立する。
- エ。旅行業者は、運送サービス又は宿泊サービスの手配のみを目的とする手配旅行契約であって旅行代金と引換えに当該旅行サービスの提供を受ける権利を表示した書面を交付するものについては、口頭による申込みを受け付けることがある。

(20) 標準旅行業約款（旅行相談契約の部）に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア。旅行者が、旅行業者の契約の履行に当たっての過失により損害を被ったときは、その損害発生の翌日から起算して6ヶ月以内に旅行業者に通知しないとその損害の賠償を受けることができない。
- イ。旅行者が、旅行業者の作成した旅行の計画に記載した運送・宿泊機関等について、運送・宿泊等のサービスの提供を受ける契約を締結できなかったときは、旅行業者は、既に収受していた相談料金を旅行者に返還しなければならない。
- ウ。旅行業者が契約の申込みを電話で受け付けたときは、契約は旅行業者が契約の締結を承諾した時に成立する。
- エ。旅行業者が相談料金を収受することを約して、旅行者の委託により、旅行の計画の作成をすることは、旅行相談契約の業務の1つである。

2. 一般貸切旅客自動車運送事業標準運送約款に関する次の記述のうち、誤っているものを1つ選びなさい。

- ア. バス会社は、旅行業者が企画旅行の実施のため、当該バス会社に旅客の運送を申し込む場合は、当該旅行業者を契約責任者として運送契約を結ぶ。
- イ. バス会社は、地方運輸局長に届け出たところにより、特別な設備を施した車両を使用する場合は、運賃の割り増しをすることができる。
- ウ. 運送契約は、旅客の運送を申し込む者から運送申込書の提出があり、バス会社がこれを引き受けたときに成立する。
- エ. バス会社は、天災その他当該バス会社の責に帰することができない事由により輸送の安全の確保のため一時的に運行中止その他の措置をしたときは、これによって旅客の受けた損害を賠償する責に任じない。

3. 国内航空2社（日本航空、全日空）の国内旅客運送約款に関する次の記述のうち、誤っているものを1つ選びなさい。

- ア. 航空会社は、手荷物引換証の持参人が当該手荷物の正当な受取人であるか否かを確認できなかったことにより損害が生じたときは、その損害の賠償に応じる。
- イ. 適用運賃及び料金は、旅客が航空機に搭乗する日において有効な旅客運賃及び料金とするが、航空券の購入後に、搭乗する便の運賃が値上げされた場合には、当該値上げの実施日後2ヶ月間に限り、当該航空券の購入時において有効であった現に搭乗する便の運賃又は料金を適用運賃又は料金とする。
- ウ. 航空会社が受託手荷物を紛失した場合、旅客はその手荷物を受け取るはずであった日から21日以内に文書で通知しなければ、航空会社は賠償する責に任じない。
- エ. 航空会社は、12歳以上の旅客に同伴された座席を使用しない3歳未満の旅客については、同伴者1人に対し1人に限り無償にてその運送を引き受ける。

4. JR旅客営業規則に関する次の記述のうち、誤っているものを1つ選びなさい。

- ア. 往復乗車券のうち片道の営業キロが600キロを超えるときは、往路、復路ごとの区間について、それぞれ普通旅客運賃を1割引する。
- イ. 普通団体の取扱いをするために必要な旅客数は8人以上である。
- ウ. 乗車券類紛失によって再発行を受けた旅客が1年以内に当該乗車券類を発見した場合は、その乗車券類と「再収受証明書」により手数料を支払い、旅客運賃・料金の払戻しを請求することができる。
- エ. 小児の片道普通旅客運賃、特別急行料金、普通急行料金、座席指定料金及び寝台料金は、それぞれ大人の半額とし、10円未満のは数は切り捨てた額である。

5. フェリー標準運送約款に関する次の記述のうち、誤っているものを1つ選びなさい。

- ア. フェリーへの自動車の積み込み及び陸揚げは、船長又はフェリー会社の係員の指示に従い、自動車の運転者が行う。
- イ. フェリー会社は、乗船者の疾病が発生した場合は、航行経路の変更の措置をとることができる。
- ウ. 旅客が使用する車いすの料金は無料である。
- エ. 回数券の通用期間は発売当日を含めて1ヶ月間である。

6. モデル宿泊約款に関する次の記述のうち、誤っているものを1つ選びなさい。

- ア. 宿泊客が、宿泊中に当初申込み時の宿泊日を超えて宿泊の継続を申し入れた場合、ホテル（旅館）は、その申し出がなされた時点で当初の宿泊契約が継続されたものとして処理する。
- イ. ホテル（旅館）は、宿泊客に客室を提供し、使用が可能となったのち、宿泊客が任意に宿泊しなかった場合においても宿泊料金を申し受ける。
- ウ. ホテル（旅館）は、宿泊客に契約した客室を提供できないときは、宿泊客の了解を得て、できる限り同一の条件による他の宿泊施設をあっ旋する。
- エ. ホテル（旅館）は、宿泊客が連絡をしないで宿泊日当日のあらかじめ明示された到着予定時刻を一定の時間経過した時刻になっても到着しないときは、その宿泊契約は宿泊客により解除されたものとみなして処理することがある。

3 国内旅行実務

1. 大人20人で構成する普通団体が、次の行程で旅行を実施した。
行程及び資料に基づき、次の設問について該当する答をそれぞれ1つ選びなさい。

〔1日目〕 平成18年8月31日（木）

札幌駅 7:00 $\xrightarrow{\text{スーパー北斗2号}}$ 10:11 函館駅
在来線特急普通車自由席

函館駅 10:40 $\xrightarrow{\text{白鳥18号}}$ 13:52 八戸駅（旅館宿泊）
在来線特急普通車指定席

〔2日目〕 平成18年9月1日（金）

八戸駅 8:56 $\xrightarrow{\text{はやて8号}}$ 12:08 東京駅（都内のホテル宿泊）
東北新幹線普通車指定席

〔3日目〕 平成18年9月2日（土）

東京都内から貸切バスに乗車、以降4日目の上野駅まで貸切バスを利用

東京駅 9:00 $\xrightarrow{\text{貸切バスにて観光}}$ 17:00 下田温泉（旅館宿泊）

〔4日目〕 平成18年9月3日（日）

下田温泉 10:00 $\xrightarrow{\text{貸切バスにて観光}}$ 17:00 上野駅

〔4日目・5日目〕 平成18年9月3日（日）～9月4日（月）

上野駅 19:03 $\xrightarrow{\text{北斗星3号（在来線特急「B寝台」を利用）}}$ 盛岡駅 $\xrightarrow{\text{IGRいわて銀河鉄道}}$ 日時駅 $\xrightarrow{\text{青い森鉄道}}$ 八戸駅 $\xrightarrow{\text{青い森鉄道}}$ 8:56 洞爺駅

洞爺駅 13:49 $\xrightarrow{\text{スーパー北斗9号}}$ 15:31 札幌駅
在来線特急普通車指定席

〈資料〉

〈J Rの運賃（距離）〉

札幌駅	—	函館駅	営業キロ	318.7km
五稜郭駅	—	函館駅	営業キロ（片道）	3.4km
札幌駅	—	中小国駅	営業キロ	447.7km
〔	函館駅	—	八戸駅	営業キロ
			運賃計算キロ	272.1km
	八戸駅	—	盛岡駅	営業キロ
	盛岡駅	—	東京駅	営業キロ

運賃表

521～ 540km	8,190円
581～ 600km	9,030円
1,081～1,120km	12,810円
1,121～1,160km	13,130円
1,161～1,200km	13,440円
1,201～1,240km	13,760円

北海道内加算額

261km以上	310円
---------	------

〈他社の運賃〉

盛岡駅	—	目時駅（I G Rいわて銀河鉄道）	2,300円
目時駅	—	八戸駅（青い森鉄道）	660円

〈J Rの在来線及び新幹線通常期普通車指定席特急料金〉

札幌駅	—	函館駅（スーパー北斗）	3,030円
函館駅	—	八戸駅（白鳥）	2,400円
八戸駅	—	東京駅（はやて）	6,000円
上野駅	—	洞爺駅（他社線経由・寝台利用）	2,150円
洞爺駅	—	札幌駅（スーパー北斗）	2,610円
B寝台料金（上野駅 — 洞爺駅）			6,300円

〈他社の特急料金〉

盛岡駅	—	目時駅（I G Rいわて銀河鉄道）	490円
目時駅	—	八戸駅（青い森鉄道）	250円

〔設 問〕

(1) J R 区間 (経由する他社の「盛岡駅－八戸駅」間を含む。) における20人分の団体旅客運賃算出方法で正しいものはどれか。

ア. $(318.7 + 272.1 + 96.6 + 535.3) - (3.4 + 3.4) = 1,215.9\text{km} \rightarrow 13,760$ ----- ①
 $(535.3 + 272.1 + 318.7) - (3.4 + 3.4) = 1,119.3\text{km} \rightarrow 12,810$ ----- ②
 $2,300 + 660 = 2,960$ ----- ③
 $(① + ②) \times (1 - 0.15) = 22,584.5 \rightarrow \text{は数整理} \rightarrow 22,580$ ----- ④
 $(③ + ④) \times 20$ 合計 510,800円

イ. $(318.7 + 272.1 + 96.6 + 535.3) - (3.4 + 3.4) = 1,215.9\text{km} \rightarrow 13,760 + 310 = 14,070$ ---- ①
 $(535.3 + 272.1 + 318.7) - (3.4 + 3.4) = 1,119.3\text{km} \rightarrow 12,810 + 310 = 13,120$ ----- ②
 $2,300 + 660 = 2,960$ ----- ③
 $(① + ②) \times (1 - 0.15) = 23,111.5 \rightarrow \text{は数整理} \rightarrow 23,110$ ----- ④
 $(③ + ④) \times 20$ 合計 521,400円

ウ. $(318.7 + 272.1 + 96.6 + 535.3) - (3.4 + 3.4) = 1,215.9\text{km} \rightarrow 13,760$ ----- ①
 $(535.3 + 272.1 + 318.7) - (3.4 + 3.4) = 1,119.3\text{km} \rightarrow 12,810$ ----- ②
 $2,300 + 660 = 2,960$ ----- ③
 $① \times (1 - 0.1) = 12,384 \rightarrow \text{は数整理} \rightarrow 12,380$ ----- ④
 $② \times (1 - 0.15) = 10,888.5 \rightarrow \text{は数整理} \rightarrow 10,880$ ----- ⑤
 $(③ + ④ + ⑤) \times 20$ 合計 524,400円

エ. $(318.7 + 272.1 + 96.6 + 535.3) - (3.4 + 3.4) = 1,215.9\text{km} \rightarrow 13,760 + 310 = 14,070$ ---- ①
 $535.3\text{km} \rightarrow 8,190$ ----- ②
 $(272.1 + 318.7) - (3.4 + 3.4) = 584.0\text{km} \rightarrow 9,030 + 310 = 9,340$ ----- ③
 $2,300 + 660 = 2,960$ ----- ④
 $(① + ② + ③) \times (1 - 0.15) = 26,860$ ----- ⑤
 $(④ + ⑤) \times 20$ 合計 596,400円

2. 30人の団体が1泊で旅行を実施した。資料に基づき、宿泊地の旅館に支払った費用の算出方法で正しいものを1つ選びなさい。

〈資料〉

基本宿泊料（1泊2食付）	1人当たり	14,000円
追加料理代（海鮮盛り）	4皿分	60,000円
飲物代（サービス料を含む。）	30人分	52,000円
入湯税	1人当たり	150円

（注）この旅館のサービス料は10%である。また入湯税以外の諸税は含まれていない。

ア. $\{14,000 + (14,000 \times 0.1)\} \times 30 = 462,000$ ----- ①
 60,000 ----- ②
 52,000 ----- ③
 $(① + ② + ③) \times 0.05 = 28,700$ ----- ④
 $150 \times 30 = 4,500$ ----- ⑤
 (① + ② + ③ + ④ + ⑤) 合計 607,200円

イ. $\{14,000 + (14,000 \times 0.1)\} \times 30 = 462,000$ ----- ①
 60,000 ----- ②
 52,000 ----- ③
 $150 \times 30 = 4,500$ ----- ④
 $(① + ② + ③ + ④) \times 0.05 = 28,925$ ----- ⑤
 (① + ② + ③ + ④ + ⑤) 合計 607,425円

ウ. $\{14,000 + (14,000 \times 0.1)\} \times 30 = 462,000$ ----- ①
 $60,000 + (60,000 \times 0.1) = 66,000$ ----- ②
 52,000 ----- ③
 $(① + ② + ③) \times 0.05 = 29,000$ ----- ④
 $150 \times 30 = 4,500$ ----- ⑤
 (① + ② + ③ + ④ + ⑤) 合計 613,500円

エ. $\{14,000 + (14,000 \times 0.1)\} \times 30 = 462,000$ ----- ①
 $60,000 + (60,000 \times 0.1) = 66,000$ ----- ②
 52,000 ----- ③
 $150 \times 30 = 4,500$ ----- ④
 $(① + ② + ③ + ④) \times 0.05 = 29,225$ ----- ⑤
 (① + ② + ③ + ④ + ⑤) 合計 613,725円

3. 次の設問について、該当する答をそれぞれ1つ選びなさい。

(1) 募集型企画旅行契約に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

(注) 標準旅行業約款によるものとする。

- ア. 夫婦でツアーの参加の申込みをし、旅行会社から最終日程表を受領した後、旅行日の前日に妻の実家の母親が亡くなった。これを理由として、旅行者は取消料を支払わずに契約を解除することができる。
- イ. 契約済みの参加予定旅行者から足に怪我をしてしまったので、行程を自分のペースに合わせるよう要求された場合、旅行会社は契約を解除することができる。
- ウ. 出発日の前夜からの大雨と台風接近の情報があり、旅行会社は契約書面に記載した旅行日程に従った旅行の安全かつ円滑な実施が不可能になる可能性が極めて大きいと判断し、出発当日の朝に旅行の中止を決定し旅行者との契約を解除した。
- エ. 旅程保証制度による変更補償金の支払いの必要が生じたので、旅行会社は参加した旅行者に対して、変更補償金を旅行が終了した日から21日目に支払った。

(2) 次の記述について、正しいものはどれか。

(注) 標準旅行業約款によるものとする。

旅行代金100,000円の企画旅行に参加しました。契約書面には「Aレストランでのディナーショー」と記載されていたので楽しみにしていましたが、当日、Aレストランによるオーバーブッキングのため「Bレストランでのマジックショー」に変更となり、仕方なく「Bレストランでのマジックショー」に参加しました。添乗員からは「レストランのミスで変更となったが、変更補償金が支払われます。」との説明がありました。

この場合、変更補償金の額はいくらになるか。

- ア. 1,000円 イ. 1,500円 ウ. 2,000円 エ. 2,500円

(3) 貸切バスに関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

(注) 一般貸切旅客自動車運送事業標準運送約款によるものとする。

- ア. バスを利用した日帰り旅行において、契約責任者の自己都合により配車日の10日前に契約を解除したため、後日、バス会社は、所定の運賃・料金の20%に相当する額の違約料を契約責任者に請求した。
- イ. 午前8:30に配車し午前8:40に出発する予定が、旅客からバス会社に対して連絡がなく、出発予定時刻を過ぎても誰も来なかったため、運送のすべてが終了したものとみなし、午前9:00にバスは営業所に戻るために発車した。
- ウ. バスを利用した旅行において集合の時点で既に泥酔し、他の旅行者に迷惑をかける恐れのある者がいたので、その者のバスへの乗車を拒否した。
- エ. バスを利用した日帰り旅行において最初の目的地へ向かう途中にバスが故障してしまい、旅行を中止した。バス会社は、既に収受した運賃及び料金の全額を払い戻した。

(8) JRの特急料金の乗継割引に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

なお、いずれも最初の列車の乗車日に乗り継ぐものとする。

ア. 金沢駅 $\xrightarrow{\text{北越 在来線特急}}$ 長岡駅 $\xrightarrow{\text{とき 上越新幹線}}$ 東京駅 $\xrightarrow{\text{のぞみ 東海道・山陽新幹線}}$ 小倉駅 $\xrightarrow{\text{ソニック 在来線特急}}$ 大分駅

◇北越及びソニックに割引が適用される。

イ. 福井駅 $\xrightarrow{\text{雷鳥 在来線特急}}$ 京都駅 $\xrightarrow{\text{ひかり 東海道・山陽新幹線}}$ 博多駅 $\xrightarrow{\text{リレーつばめ 在来線特急}}$ 新八代駅 $\xrightarrow{\text{つばめ 九州新幹線}}$ 鹿児島中央駅

◇雷鳥及びリレーつばめに割引が適用される。

ウ. 東京駅 $\xrightarrow{\text{こまち 秋田新幹線}}$ 秋田駅 $\xrightarrow{\text{かもしか 在来線特急}}$ 青森駅 $\xrightarrow{\text{スーパー白鳥 在来線特急}}$ 五稜郭駅

◇かもしか及びスーパー白鳥に割引が適用される。

エ. 長崎駅 $\xrightarrow{\text{あかつき 在来線寝台特急 (特急料金3,150円)}}$ 京都駅 $\xrightarrow{\text{のぞみ 東海道新幹線}}$ 名古屋駅 $\xrightarrow{\text{(ワイドビュー) ひだ 在来線特急 (特急料金2,610円)}}$ 高山駅

◇(ワイドビュー) ひだに割引が適用される。

(9) ホテル(旅館)に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

(注) モデル宿泊約款によるものとする。

ア. 1人で7日間滞在予定の宿泊者が、旅館に電話で申込みをし承諾を得た。その際に申込金として、宿泊日数の6泊分のうち4泊分の宿泊代金を、宿泊日の前日までに旅館の指定する金融機関に振込むよう指示された。

イ. 宿泊日の50日前に旅館と契約した30人の団体客が、宿泊日の10日前に2人の不参加が決まったので、すぐにその旨を旅館へ連絡したら、2人分の違約金の支払いを請求された。

ウ. 6泊の契約をした旅行者が、自己の都合で宿泊日数を2泊に短縮した場合、4泊分の違約金の支払いが必要である。

エ. デジタルカメラがロビーに置き忘れられていたのを、旅館の従業員が発見した。しかし、発見した日から7日を経過しても所有者が判明しなかったため、翌日に最寄りの警察署に届けた。

4. 次の設問について該当する答を、それぞれ1つ選びなさい。

(1) 423.4mの水深が日本一を誇る湖であり、湖岸の瀉尻に建つ伝説を秘めた「たつこ像」が、訪れる観光客に親しまれている湖はどれか。

ア. 洞爺湖 イ. 十和田湖 ウ. 田沢湖 エ. 摩周湖

(2) 北関東の東部にある久慈川支流の名瀑として知られ、四度ノ滝とも呼ばれる。厳冬期には巨大な氷瀑となることでも知られる滝はどれか。

ア. 吹割の滝 イ. 華巖の滝 ウ. 称名の滝 エ. 袋田の滝

(3) 北海道最東端の岬として人気の観光名所であり、灯台周辺から国後島など北方領土の島々が一望できる岬はどれか。

ア. 納沙布岬 イ. 襟裳岬 ウ. 宗谷岬 エ. 神威岬

5. 次の各観光地とJRの最寄り駅の組合せのうち、最寄り駅が所在する路線名を下記の語群からそれぞれ1つ選びなさい。

- (1) 醍醐寺 — 山科駅
- (2) 青の洞門 — 中津駅
- (3) 羽黒山 — 鶴岡駅
- (4) 鞆の浦 — 福山駅

[語 群]

ア. 羽越本線 イ. 日豊本線 ウ. 中央本線 エ. 東海道本線
オ. 山陰本線 カ. 奥羽本線 キ. 山陽本線 ク. 美弥線

6. 次の設問について該当する答を、それぞれ1つ選びなさい。

(1) 次の温泉地と陶磁器の組合せのうち、同じ都道府県にないものはどれか。

- ア. 湯西川温泉 —— 益子焼
- イ. 月岡温泉 —— 無名異焼
- ウ. 雄琴温泉 —— 信楽焼
- エ. 湯郷温泉 —— 大谷焼

(2) 次の城と名産品の組合せのうち、同じ都道府県にないものはどれか。

- ア. 鶴ヶ城 —— 小千谷ちぢみ
- イ. 宇和島城 —— 今治タオル
- ウ. 小倉城 —— 久留米餅
- エ. 首里城 —— 紅型

7. 次の設問について該当する答を、それぞれ1つ選びなさい。

(1) 次の渓谷・峡谷と高原と寺社の組合せのうち、すべてが同じ都道府県にあるものはどれか。

- ア. 赤目渓谷 —— 葛城高原 —— 伊勢神宮
- イ. 高千穂峡 —— えびの高原 —— 鶴戸神宮
- ウ. 長門峡 —— 秋吉台 —— 吉備津神社
- エ. 寸又峡 —— 美ヶ原高原 —— 諏訪大社

(2) 次の岬と海岸と遺跡・古墳の組合せのうち、すべてが同じ都道府県にあるものはどれか。

- ア. 塩屋埼 —— 九十九里浜 —— 加曾利貝塚
- イ. 日御碕 —— 白兎海岸 —— 藤ノ木古墳
- ウ. 都井岬 —— 虹の松原 —— 西都原古墳群
- エ. 御前崎 —— 三保の松原 —— 登呂遺跡

(3) 次の民謡と民芸品と郷土料理の組合せのうち、すべてが同じ都道府県にあるものはどれか。

- ア. おてもやん —— 山鹿灯籠 —— からしれんこん
- イ. 斉太郎節 —— 南部鉄器 —— わんこそば
- ウ. 金毘羅船々 —— 丸亀うちわ —— ままかり
- エ. ちゃっきり節 —— 甲州印伝 —— 安倍川餅

8. 次の祭・行事の開催月について に該当する答を、下記の語群からそれぞれ1つ選びなさい。

- | (祭り・行事) | (開催月) | (都道府県) |
|--------------|--------------------------|--------|
| (1) 弘前ねぶたまつり | — <input type="text"/> — | 青森県 |
| (2) 東大寺修二会 | — <input type="text"/> — | 奈良県 |
| (3) 長崎くんち | — <input type="text"/> — | 長崎県 |
| (4) 百万石まつり | — <input type="text"/> — | 石川県 |

[語群]

- ア. 1月 イ. 2月 ウ. 3月 エ. 4月 オ. 5月 カ. 6月
キ. 7月 ク. 8月 ケ. 9月 コ. 10月 サ. 11月 シ. 12月

9. 文学の舞台に関する次の設問について該当する答を、それぞれ1つ選びなさい。

- (1) 穂高連峰や焼岳、霞沢岳などの峰々に囲まれ、『芥川龍之介』の小説「河童」の舞台として知られ、大正池から河童橋に至る散策コースが人気の観光地はどれか。
- ア. 天城峠 イ. 上高地 ウ. 鈴鹿峠 エ. 日本平
- (2) 瀬戸内海国立公園内にあり、『壺井栄』の小説「二十四の瞳」の舞台となり、日本のオリーブ発祥の地としても知られる島はどれか。
- ア. 因島 イ. 小豆島 ウ. 生口島 エ. 淡路島
- (3) 奈良県大台ヶ原に発して和歌山県北部を西流し、『有吉佐和子』の小説でも知られ、古くから吉野材のいかだ流しに利用されてきた川はどれか。
- ア. 紀ノ川 イ. 長良川 ウ. 木曾川 エ. 淀川
- (4) 兵庫県北部に位置し、奈良時代に発見されたといわれる古くからの温泉地であり、数多くの著名な文人が来訪し、特に『志賀直哉』の小説でも知られる温泉はどれか。
- ア. 三朝温泉 イ. 奥津温泉 ウ. 湯原温泉 エ. 城崎温泉

10. 次の に該当する答を、それぞれ1つ選びなさい。

(1) は、桃山式の回遊庭園であり、成趣園とも呼ばれる。東海道五十三次を模したといわれる庭園には、湖に見立てた池が配され、ゆるやかな起伏の築山とともに、庭園美を楽しめる。

ア. 龍安寺石庭 イ. 栗林公園 ウ. 水前寺公園 エ. 磯公園

(2) 鳥取県の浜村温泉は、民謡 で有名な温泉郷で、豊富な湯量と美しい海辺が自慢の観光地であり、海岸では早朝に地引網も楽しめる。

ア. 貝殻節 イ. 串本節 ウ. デカンショ節 エ. 安来節

(3) 中山道の旧宿場町である は、島崎藤村の生地として知られ、宿場町時代のおもかげをよく残し、藤村記念館がある。

ア. 妻籠 イ. 上松 ウ. 木曾福島 エ. 馬籠

(4) は、安政元年（1854年）に水不足に悩む矢部郷の開発のために造られた日本最大の水路橋で、約20mの高さから放水される様子は豪快である。当時の最新技術を集めたこの橋は、「肥後の石工」の代表作である。

ア. 眼鏡橋 イ. 通潤橋 ウ. はりまや橋 エ. 谷瀬の吊り橋

(5) 平成5年に世界遺産リストに掲載された は、世界最大級のブナ林が広がる山々で、世界遺産登録の前年に、国の自然環境保全地域にも指定された。

ア. 紀伊山地の霊場と参詣道 イ. 白神山地 ウ. 知床 エ. 屋久島